

替え歌 20

(2020・0506)

春の沈黙

不都合な都合のせいで、不自然な自然の始まり。

静かな湖畔の森の陰から

見たこともない鳥が鳴く

不格好 不格好 不格好 不格好 不格好

川の中でも異変が起きている。

メダカの恰好は 変わったか

そっと除いて 見ないふり

そっと除いて 見ないふり

みんなでお遊戯しているよ

世界中、猛暑日。

モアイの地 モアイの地

僕らは熱帯の風に吹かれて

病んじゃうよ

夜でも。

夏は扉を開けて

昼は、冷やっこいの。

ヤーレン 素麺 冷麺 冷麦 ずるずる

紅茶に氷を。

骨まで 骨まで 骨まで

アイス・ティー 沁みるのよ

政府広報。

寝坊して
すごく すごく寝坊して
ただ眠りたいだけなのに
ぐう ぐう ぐう ぐう
涎が垂れちゃうんだろう
ぶらぶらするのを 避けよう
肺病予防

物資が不足する。

お手々 繋いで 野道を行けば
靴がない

異人さんの靴なら、まだ売っていた。

高い靴 履いてた女の子
行っちゃった
今では ひどい目に合っちゃって
いるんだろう

おやつが足りない。

さっちゃんはね
バナナを半分も 食べられないよ
かわいそうね

リンゴも食べられない。

赤いリンゴの皮だけくわえ
黙って見ている青い空
リンゴは皮でも リンゴだけれど
リンゴのうまさが わからない
リンゴ 皮 いや
皮 いや リンゴ

酒飲みだって、かわいそう。

ちよいと一杯のつもりが つもり

保存食もない。

欲しいものは 干し芋

見つけにくい 干し芋

這いつくばって 這いつくばって

一体 どこに 干し芋 干し芋

まだまだ探しますよ

探すのを止めたとき

飢え死にするのも よくある話で

腹の中へ 腹の中へ

入れてみたいお芋ありませんか

干し芋 干し芋 干し芋 干し芋

隠していたのに見つけられる。

これが最後のどら焼きなのに

私の財布は すぐ底なのに

保存食は貴重。

食べるな 腹が減っても

食欲の秋、腹の虫は鳴きやまない。

あれ 泣き虫が 泣き出した

ああ おもしろい 虫の声

炊き出し。

飢えに怯えて 歩こう

お粥が こぼれないように

ひとりぼっちの夜

すぐに飲み込むのは惜しい。

もぐもぐ 噛めよ よく噛めよ

残飯もない。

くれない くれない

何もくれない くれないホテル

虫の息。

お菓子屋の飴を舐め舐め

このまま 死んでしまいたい

乳児死亡激増。

かわいいベイベー

位牌 位牌

意識高い系も無力。

ワールド・イズ・オーヴァー 泣くな グレタさん

終わりにしよう 金がないから

決定的だったのは、温暖化ではなく、その後。

おろおろするなよ 氷河期が来るぜ

責任転嫁。

燃える太陽 夏なのに 何で冷たい

誰のせいでもありやしない

みんな みんなが悪いのさ

いがみ合う人々。

憎い 口惜しい 憎い 口惜しい
凍え凍えて 今に死ねばいい
雪 雪 降れ 降れ もっと降れ
やつらの背中に降り積もれ

露西亜の奴隷が氷を切り出す。

えい 氷 えい 氷 もう一つ えい 氷

露西亜の下級女子は北方四島を経由して北海道に逃げこむ。

青い目をしたお人形は
シベリア生まれのセルロイド
淋しい日本の兄ちゃんと
仲よく遊んでやっとなぐれ

月夜、廃墟と化した工場でパーティーが開かれている。

春を売ろうと 花の宴
めくるスカート 禿 伏して
見ようと待つが 暗すぎる
昔の光 今 いずこ

大停電。

街の明かりが みんな消えたね
横浜 ダーク・ナイト 横浜

ヒーローの登場が待たれる。

鉄格子 潜り抜け
見上げる真夜中の空に
誰も映さないバット・マーク
私はジョーカー待ち

分断そして排除。

きのうまでのごろつきを 処分 処分
笑ってないとも
ない友 ない友
ないトモロー

警官がごろつきになる。

迷子の 迷子の お巡りさん
あなたのおうちはどこですか
名前を聞いても答えない
元犬のお巡りさん
怒ってしまっ
バンバンババン バンバンババン

希望を捨てるなと大人たちは嘯く。

だけど うるうる うるうる うるうる
あしたは きっと 何もない
あしたは どっちらけ

自業自得。

進歩の階段 落ちた
おまえはもう 死んでるのさ
幸せは誰かがきつと 運んでくれると信じてたね
症状だったと あの頃を 思うときが来たのさ

実も蓋もない。

あの頃 君は ばかだった

捻りなさい。

みすばらしい あの頃
ばかくせえ時代

火星移住計画、失敗。

さらば 火星よ
さらば 土星よ
さらば 太陽
旅立つ船は
地球生還 やめた

解決策、誰か、見つけて。

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが
誰かさんが 誰かさんが……

自殺者が増える。

逝っちっち 逝っちっち
何で 何で 何で
どうして どうして どうして
逝っちっち 逝っちっち
淋しい夜は いやだよ
僕も逝こう
逝っちっち 逝っちっち

疫病が疾風のように現われて疾風のように去ってゆく。

どこの誰かは知らないけれど
誰もがみんな死んでいく

安楽死の是非を問う。

いつまでも どこまでも
僕を頼りにして

倒れそうになったときは
殺してあげる

勝者はいない。

人 負け 負け
人 負け 負け

最後の人間が歌う。

最後の最後まで 人は人を苦しめた
そして 今 翼に身を委ね 私も旅立つ

おや、何か、動いたぞ。

雪の降る街を 雪の降る街を
A I だけが通り過ぎて行く

氷河期にも春は訪れる。しかし――

蛙の歌が 聞こえてこない

大気汚染がなくなって澄み渡った大空に円盤が現れる。

もしかしたら もしかしたら
地球の男に
アッホー！
(終)

(2020・0518)

半地下のハンカチーフ
闘うふりするやつらは
闘えない僕を笑うのだろう
バイト！

手錠の跡が鏡に映る
ひとりぼっちの部屋で

僕が小さく見える
僕は思わず 僕を抱き締めたくなる

少年よ 死者になれ

透明人間になれ

お父さん 死んじゃった
おじいさん 病気なんだ

お嫁 お嫁 お嫁 ばあさん

母さんは夜鍋をして
心を病んでくれた

妹よ
ブラ板一枚 隔てて
今

少女A

今は もう動かない おじいさんの吐息

時計を見ながら ただ独り
死ぬの 待つのも 罰の内

お葬式で泣かないと
冷たい人と言われそう

燃えろ いい温度

あなたなら土葬する？

僕は今日まで生きてきました
そして 今 思っています
明日からは どうにも生きていけないだろう と

亜麻色の長い髪

長い髪の娼婦

笑いながら破った写真を
ナイフで刻んで燃やす

夕暮れ時は
とっても独りじゃ

とっても とっても

夕日は落ちて 黄昏を
進めよ あほよ

三歩進んで 五歩下がる

宵闇 迫れば
不気味 小石

夜が来る前に もう一杯

夜がまた来る

今宵は月も出ぬ

罪を犯した この渚に
独り 俯き

夜に 夜に 夜に吐いてる

闇に隠れていきむ

包む夜霧よ 隠しておくれ

僕は 今 何を見詰めているの

海を見詰めていた

浜で暴れていた

望み捨てるか 夜

惨敗続きの昼 夜

夜 夜 夜も僕を止めないか

おいで おいで

だから 今夜

闇の夜風よ 淋しくないよ

コービッドよ 僕も旅立つ

死と寝に

更けゆく

夜

夜

この夜

星なき夜

素敵だなあ 海の底

真夜中

夜明けが 夜明けが 来るまで

この闇の向こうには

もう明日が待っている

海から上った お日様が
それでいいのだ

夜明けの海よ

今は もう朝
僕のいない海
(終)

(2020・0521)

七つの子
鳥 なぜ 泣くの
か弱い七つの子がいるからよ
(終)

(2020・0527)

おつかいアレさん
あんまり急いで コツツンコ
アレさんとブンさんが コツツンコ
あっち言って チョー チュー
こっち聞いて ベー

あいたた ごめんよ その拍子
忘れた 忘れた おつかいを
あっち言って チョー チュー
こっち聞いて ベー

(2020・0605)

ドアの外で

あーのね、おっさん、わしゃ、わからんよ。

——高勢實乗

どこかの国から やって来た

知恵と力と勇気と根

休め 休校 いつまでか

今 難事

まだ早い

今 難事

ちょっと待ってて

胸騒ぎの年月

入ってもいいかい

ノー ノー ノー ノー ボーイ

ドアの外で ちょっとだけ

おうちでね うっ ううん

テレワーク うっ ううん

やっぱりね 画面じゃ物足りない

今日も仕事は来なかった

きっと きっと来るさ そのうちに

その日にゃ 泣こうぜ 嬉し泣き

濛々 朦々

フリーランス

何てたって喘いどる

昨日も 今日も また明日も

みんなで籠って日が暮れる

ここが一丁目 一丁目一番地

わかってないから 辛抱するんです 民度

わかってないから 好きなんです 民度
人と同じ 同じことが 同じことをすることが
わかってないから 好きなんです 民度

内緒 内緒 内緒の話は アレなのね
びくびくびっくり
ねえ かあさん
今度の檻薔薇 あのねのね
坊やのお願い 聞いてよね

アレがどうって わかりたくて
テレビを点けてるけど
信じられない 未来が

夜の街で買おう
ビューンと飛んでく独身 二十八歳

麻疹の病の菌だろう
病魔に負けても 懲りない稽古
排除 休業 はい どうぞ

待ちぼうけ 待ちぼうけ
十万 待っても届かない
そこへ詐欺師がやってきて
ころり騙され 火の車

金のないやつは 俺んどこへ 来んな
俺もないから 心配なんだ

こちら 陰気に貸します元手

もういやだ こんな暮らしは
もう二度と したくない

冬が来る前に もう一度
あの波に 巡り遭いたくない

壊れてしまえ 崩れてしまえ
落ちる所まで落ちて行け
咲いた花は枯れてしまえばいい

まっふたつに割れたのさ
社会が割れたのさ

教えてください
国が死にますか 君が死にますか

死んでしまおうなんて
人生 へろへろ

死んだって どうだって いいじゃねえか

人生は風邪ひこうか
病んで行け
病んで行け
病んで行こう
(終)

(2020・0626)

ねえさん
ねえさん ねえさん
お鼻が低いのね
そうよ あなたも低いのよ

ねえさん ねえさん
誰が好きなの
あのね 自分が好きかもよ
(ミットソン「まど・みちおの『ぞうさん』讃」を改変)
(終)

(2020・0630)

小金持ち

小金持ちは虫の息

プレハブ建てた 金借りた

ローンが返せず 車中泊

小金持ちは虫の息

預貯金おろした 株売った

子どもに水だけ なめさせた

(終)

(2020・0716)

B D 団歌

ぼ ぼ ぼくらは少年 断定だ

言う気 満々 縷々 述べる

やること なすこと 正しくないのに

正しいような見方する

ぼ ぼ 僕らは少年 断定だ

(終)

(2020・0810)

カレーすき

おれは 変わらず カレーすき

同じ おまえも カレーすき

どうせ 二人は カレーすき

激辛 避けない カレーすき

(終)

(2020・0815)

雲丹

雲丹は美味しいな 美味しいな
箸が進むし 酒も合う

雲丹をご飯に 山と盛り
食べてみたいな 越前で
(終)

(2020・0824)

おなかの出る歌
どうしておなかが出るのかな
おやつを食べると出るのかな
ビールを飲んでも出るもんな
おじさん おばさん
おなかと背中が離れるぞ
(終)

(2020・0906)

アイアイ

アイアイ アイアイ お猿さんだよ 尻尾のない
ウィーウィー ウィーウィー 仔豚さんだよ 尻尾のない
ユーユー ユーユー ジャニーさんだよ 今はいない
ヒーヒーヒー 息が続かない
ゼイゼイゼイ 息が続かない
シーシーシー 彼女は海を見る
(終)

(2020・0912)

バナナ・ボート

ひでえよ ひでえよ

いてて いてて いてて いてて ひでえよ
餡蜜 食べたい
お金がない
ひでえよ ひでえよ
家来か お待ちよ
晩ご飯
ひでえよ ひでえよ
(終)

(2020・0926)

芋煮える夫人
いつでも食べ頃
芋煮える夫人
妬ましいのよ

どこでもごろごろ
芋煮える夫人
憧れるのよ

いけない人ねと
みんなは言うけど
みんなも変われば？
普通のおとなよ

どきどきわくわく
芋煮える夫人
長生きしようよ
(終)

(2020・1001)

365日のうんち

健康は歩いてこない
だから坐って待つんだね

一日一回 二日で二回
三日も出ないと心配ね
健康は うんち うんち
汗かき べそかき 力もうよ
あなたのくれた青汁が
きれいなうんちになるでしょう
脚を開き 腰をおろし
うんち うんち
休まないで力め
うんち うんち
(終)

(2020・1122)

コービッド

最多 最多
コービッドの波が
並んだ 並んだ
赤 白 黄色
オレンジ色は 嫌いだな
(終)

(2020・1129)

ブルーベ・シャ豚カツ

作者不詳

森豚カツ 泉胡 包まれ天麩羅
静か胡 ねむルイベ
ブルーベ ブルイベ ブルイベ・シャ豚カツ
きつ豚カツ あなた雲呑 赤芋煮 薔薇海苔巻
薔薇海苔巻 香り雁擬 苦しく天麩羅
涙オムレツ そつ豚カツ ながスープでしょオムレツ
ブルーベ ブルイベ ブルイベ
ブルーベ ブルイベ ブルイベ・シャ豚カツ
(終)

(2020・1201)

お鈴甚五郎兵衛

原案・杉浦幸雄

甚五郎兵衛は腕のよい職人で、稼ぎもそこそこにあったが、宵越しの金は持たねえなどと粋がり、博打ですってしまふ。女房のお鈴は泣いているという。話を聞きつけ、叔父がやってきた。お鈴は幼い頃に二親を失くし、三田村に住む叔父夫婦に育てられたのだ。

さんざん苦労して集めた銭の束を、外連もなくざらりと床に置き、これが最後だぜ、どうする、これを受けるんなら、お鈴は連れて帰るよ。甚五郎兵衛、喉から手が出そうなのを堪え、両手を着き、這いながら掴むが、持ち上げはせず、そのまま、押し返す。銭が床をききっと鳴らして滑った。要りやせん。博打はもう止しにします。

できた、できた。頷きながら銭を懐にしまふ。代わりと言っちゃなんだが。袋を姪の膝に載せた。土間で、お鈴は、袋の焼き栗をすまし汁に泳がす。

ちょいと厠。叔父は立ち、お鈴の袖へ何やら放り込む。肩が下がった。握じった袂を掴み、はっとする。見上げると、叔父の首が小さく左右に振れていた。夫を伺う。いや、あいつにゃ内緒だよという叔父の仕草に、お鈴は顎を引いた、やや斜めに。

子供らが歌いながら、溝板を踏んで通り過ぎる。

甚五郎兵衛 甚五郎兵衛

鈴が泣く

三田の叔父さん やってくる

今日は楽しい 栗すまし

(2020・1203)

わかったつもり

全然 無視 無視

わかったつもり

おまえの頭は どこにある

聞き出せ

書き出せ

抉り出せ

(終)

(2020・1215)

南京玉簾

ベーシック・インカムかと思えば

あっという間に生活保護は打ち切りか

さては年金騙すだけ

(20 終)